

バイカルシベリアにおける後期更新世遺跡群の考古学的調査

○ 佐藤孝雄 (慶大・文), 加藤博文 (北大・文), 吉田邦夫 (東大・総研博),

國木田大 (東大・常呂実習施設), 鈴木建治 (北大・アイヌ先住民研),

F. Khenzykhenova (RASシベリア支部・地質研), E. Lipnina (イルクーツク大・歴史), G. Medvedev (イルクーツク大・歴史)

Archaeological Investigation into the Late Pleistocene Sites of Baikal Siberia

○ Takao SATO, Hirofumi KATO, Kunio YOSHIDA, Dai KUNIKITA, Kenji SUZUKI,

Fedora KHENZYKHENOVA, Ekaterina LIPNINA, German MEDVEDEV

バイカル湖周辺域は、最終氷期、解剖学的現代人がユーラシア北東部や新大陸へと進出するために必要な様々な文化的適応装置を開発・獲得した地域であったと目されている。発表者らは、後期更新世に同地域に進出した人類の行動を多角的かつ領域横断的な共同研究によって解き明かすべく、2004年度よりブラーツク貯水池南岸に位置するバリショイ・ナリン遺跡(53°34N, 103°30E)で発掘調査を重ねてきた。その結果、カルギンスキー亜間氷期(約25ka BP- 55Ka BP)の古土壌層中から石器やフレイク類、ウマを主体とする哺乳動物化石を多数採集、2009年には炉址に由来するとおぼしき炭化物の集中(約28Ka BP)も検出するに至った。本発表ではそれら一連の調査成果について概要を報告する。

キーワード: 先史・考古・動物